農 業 技 術 情 報

令和８年９月１５日

池田町農業構造政策推進協議会

十勝農業改良普及センター
十勝東部支所　015-572-3128
ＪＡ十勝池田町　572-3131
高島支所　573-2111
池田町農林課　572-3118

農作物の生育・作業の遅速（9月15日現在）　　（ ）内は平年値

作　物　名	遅速日数	生　育　状　況		農作業状況
大豆	+3	茎長 74.9 (74.6)cm 葉数 9.1 (9.7)枚	着莢数 508.5(558.5) 莢/㎡	
小豆	-2	茎長 78.2 (59.4)cm 葉数 12.2 (10.5)枚	着莢数 348.2(345.8) 莢/㎡	収穫始 9/15 (9/15) 収穫期 (9/30)
金時（秋晴れ）	―	茎長 49.7 (52.6)cm 葉数 3.5 (4.0)枚	着莢数 151.5(151.0) 莢/㎡	収穫始 8/30(9/1) 収穫期 9/9 (9/9)
手亡	-3	茎長 50.6 (52.1)cm 葉数 7.1 (7.3)枚	着莢数 234.7(227.7) 莢/㎡	収穫始 9/15 (9/11) 収穫期 (9/20)
てん菜（直播）	-3	根周 33.0 (33.4)cm		
牧　草	+1	草丈 87.0 (86.1)cm		収穫期 8/31 (9/3)
サイレージ用とうもろこし	-2	稈長 285.0 (289.5)cm	糊熟期8/30 (8/30) 黄熟期9/13 (9/11)	収穫始 9/15 (9/13)

畑　作

＜秋まき小麦＞

越冬前の十分な生育量を確保するため、
適期適量は種、適正な は種床の準備を心がけましょう。

(1) は種時期

越冬前の葉数は５葉を目標に、４～６葉が確保できる時期が「は種時期」です。適期は種による小麦の健全な生育は重要です。は種遅れにならないように注意しましょう。

表1 小麦の遅まきのリスク（R8「北海道の小麦づくり」一部改変）

	リスク
遅まきの場合	・越冬前の生育が不十分となりやすく、寒害や凍上害(根断、根浮き)を受けやすくなる。 ・は種時期が遅くなるほど雪腐病の発病度が高まり、減収・品質低下の要因となる。 ・成熟が遅れ、雨害(穂発芽等)にあう危険性が高まる ・遅れ穂が多発しやすくなり、登熟ムラや粒の充実不足等が起きやすい。 ・地温が低くなるため、なまぐさ黒穂病の感染リスクが高まる。

(2) は種量

適期は種で 140～180 粒/ｍ²とし、は種時期の早晩により、は種粒数を増減します。
本年産種子の千粒重を確認して表２を参考に、は種量を決定しましょう。

表２　池田町におけるは種時期別のは種量例
（池田アメダス過去 10 年平均気温から積算気温を算出）

時期 （積算気温(℃)）	千粒重 43ｇ時のは種量（kg/10a）　※出芽率 90% （は種粒数別の越冬前想定生育状況）		
	110～140 粒/㎡	140～180 粒/㎡	180～255 粒/㎡
9／20～9／23 （470～580 未満）	5.2～6.7 （６葉程度）	*茎数過多*	*茎数過多*
9／24～9／28 （470 程度）	*茎数不足*	6.7～8.6 （５葉程度）	*茎数過多*
9／29～10／2 （390～470）	*茎数不足*	*茎数不足*	8.6～11.0 （４葉程度）

＊使用する種子の千粒重からは種機を調整する。
＊ほ場の出芽率に応じては種粒数を増減する。
＊は種適期より早くは種する場合は、機械の設定上可能な限り適正は種粒数に近づける。
＊縞萎縮病の発生が予想されるほ場は極端な早まきは避け、遅めに(9/29 頃)には種する。

＜参考：は種量計算例＞～出芽率90%、千粒重43.0ｇの場合～

【千粒重g】×【は種粒数(粒/㎡)】÷ 1000 ÷【出芽率】＝【は種量（kg/10a）】

43.0g × 160 ÷ 1000 ÷ 0.9 ＝ 7.6 (kg/10a)

※　は種時の土壌水分が高い場合や、沖積土などの重い土で砕土性が劣り整地が悪くなりやすいほ場には種する場合など、土壌タイプやほ場条件によって出芽率は変動します。

出芽率が90%を下回ることが予想される場合や凍上害の発生が多い土壌では、[出芽率]を低め（ex.0.9→0.8）にして計算しましょう。

※　使用種子の千粒重を確認しましょう。

(3) は種深度

・は種が深すぎると二段根になり、出芽ムラも重なり初期生育は劣ります。均一な出芽と良好な初期生育を確保するために、①砕土を細かくしすぎない、②は種前に鎮圧する、③は種深度は２～３㎝、とします。
・浅まきは出芽を早めますが、根張りが悪くなりやすく、生育を不安定にします。

（4）施肥量～リン酸、カリは土壌診断結果を参考に！！

越冬前に小麦が吸収する窒素は４kg/10a 程度です。リン酸、カリ、苦土は全量基肥として施用しましょう。また、過剰な基肥施用はコストが無駄になるほか、越冬後の茎数コントロールが困難になります。また、土壌凍結が浅い年だと肥料成分が下層に流亡して地下水・河川汚染の原因となりますので、適正な施肥を行いましょう。

表3　は種時の施肥量(kg/10a)(「北海道施肥ガイド 2020」より)

土壌型	低地土	泥炭土	火山性土	台地土
窒素	4			
リン酸	12	14～15		
カリ	9～10			
苦土	3～4			

基肥施肥例①　「BB850Cu」50kg/10a　（窒素：リン酸：カリ＝4.0：12.5：5.0kg/10a）
基肥施肥例②　「Ｄｄ708」65kg/10a　（窒素：リン酸：カリ＝11.1※：6.5：5.2kg/10a）
※緩効性肥料であり、起生期追肥に相当する量を含んでいる。リン酸・カリ減肥銘柄

（5）雑草対策

イネ科雑草を抑制できるのはこの時期だけです。特に連作の場合はイネ科雑草の増加が懸念されます。多年生雑草が多い場合、は種後の雑草処理が困難となるのでグリホサート系除草剤による耕起前処理を行いましょう。

また出芽後の除草剤散布は効果が劣る場合があるので、は種後出芽前に土壌処理を実施しましょう（表４）。

表4　秋まき小麦は種後除草剤例

薬剤名	処理方法	使用時期	薬量 ml/10a	使用回数
ガルシア フロアブル ※１,２	全面土壌散布	は種後～出芽前（雑草発生前）	150～250	1回以内
	雑草茎葉散布 又は全面土壌散布	小麦出芽直前～小麦３葉期（雑草発生前～発生始期）	100～200	
ガレース乳剤 ※1,２	全面土壌散布（雑草発生前）	は種後～出芽前	200	1回以内
		小麦出芽後～出芽揃期	150～250	
	土壌兼雑草茎葉散布	小麦の１～３葉期（雑草発生前～発生始期）	100～150	

※１　イヌカミツレが多発するほ場では、使用基準の範囲内において高薬量で使用する。
※２　ガレース乳剤・ガルシアフロアブルは同一成分のジフルフェニカンを含んでおり、いずれか１回のみの使用とする。

(6) 連作となる場合の注意点

前作の収穫遅れなどやむを得ない状況で連作を選択する場合は、早めの決断、早めのほ場準備、可能な限り適期には種を行うことにより、越冬前の生育量を確保することが重要です。また、前作の麦稈がほ場表面に露出している場合、雪腐病の感染源となるおそれがあります。プラウ耕を行い、麦稈を地中にすき込むよう心がけ、適期に防除を実施し、越冬後は融雪促進に努めましょう。

ただし、条斑病・縞萎縮病が発生しているほ場での連作は避けましょう。

(7) 排水対策

排水性が劣るほ場は「なまぐさ黒穂病」をはじめ、土壌病害の発生リスクが高まります。心土破砕や、は種後の畦間サブソイラの施工により、排水良好なほ場をつくるように心がけましょう。

十勝管内では未発生ですが、なまぐさ黒穂病の耕種的防除も併せて行いましょう！

①必ず消毒済みの採種ほ産種子を使用し、適期は種を目指しましょう

②は種床は膨軟にしすぎず、適正は種深度（２～３㎝）を守りましょう。

深まきは出芽までの日数を要し、感染のリスクが高まります。

〈豆類〉

豆類の生育は全般的に平年並です。ほ場ごとの登熟状況と天候を鑑み、収穫方法に応じた適期収穫と乾燥調製に努めましょう。

(1) 菜豆類収穫時の注意

降雨直後や高水分での収穫は避けましょう。

（手亡類は子実水分 20%以下（完熟期から１週間以降）で収穫可能）

収穫前に雑草の抜き取りを行いましょう。過乾燥・葉落ちの悪い豆は、スレッシャの脱穀スピードを抑えましょう。

(2) 小豆の収穫時の注意

収穫適期の目安は、「熟莢率」で判断し、過熟粒を防ぐため適期収穫に努めましょう。

表5 小豆の収穫適期の目安(H14･H16 中央農試 H9 十勝農試)

区分	収穫時期の目安	収穫早限の目安
ピックアップ収穫	熟莢率 100%	熟莢率 80%、子実水分 25%程度
ダイレクト収穫	完熟期(熟莢率 100%)から2週間以内 （子実水分 16～18%）	①汎用コンバイン(4条)～熟莢率 90%、子実水分 25%程度 ②豆用コンバイン(2条)～熟莢率 80%、子実水分 25%程度

(3) 大豆収穫時の注意

ア　汚粒対策

雑草（特に紫色の実をつけるイヌホオズキ）や青立ち株は事前に抜き取っておきましょう。

また、土砂の混入も汚粒の原因となるので、倒伏がみられるほ場や培土の高いほ場では刈り高さに注意して収穫作業を行いましょう。

イ　収穫適期

コンバイン収穫の場合、収穫適期幅は短いため、事前にコンバインの点検・整備を入念に行いましょう。

「黄大豆」

収穫の目安は、子実水分が 20%以下(最適は 16%以下)とし、茎表面に「ぬめり」がある時は汚粒の原因となる恐れがあるため収穫を止めましょう。また、刈り遅れは子実の外観品質に影響します。適期収穫を心がけましょう。

「いわいくろ」

収穫の目安は、子実水分が 20%以下(最適は 18%)とします。子実水分が下がり過ぎると裂皮により商品価値を落とすので注意しましょう。

＜てんさい＞

(1) シロオビノメイガ

池田町内でも発生が見られます。発生量が多い場合は薬剤を散布してください。

表6 シロオビノメイガ防除例

農薬名	RAC コード	希釈倍率	使用時期･使用回数
ディアナ SC	5	5,000～7,500	収穫前日まで 2 回以内
ブロフレア SC	30	2,000～4,000	収穫 7 日前まで 3 回以内

(2) 収穫時・貯蔵時の注意点

ア　収穫時の注意点

タッピングの高さに注意しましょう。

収穫作業は輸送計画に基づき集荷日の２～３日前には終了しましょう。

根腐症状など腐敗が生じている部分は別掘りとし、腐敗混入を防ぎましょう。

直播栽培では、移植栽培より根長が長くなります。収穫物の損傷状況を確認し、掘り取り深さや作業速度を調節しましょう。

イ　貯蔵時の注意点

収穫したてんさいをほ場に一時堆積・貯蔵する場合は、必ず防水シートなどで被覆し、腐敗・乾燥・凍結を防止しましょう。また、降雨流入による腐敗を防ぐため、堆積場所の周辺に排水溝を設けるなど、排水対策も行いましょう。

野　菜

＜にんにく＞

（１）　植え付け前の種子消毒

　チューリップサビダニ、イモグサレセンチュウ、黒腐菌核病対策として必要に応じた種子消毒を実施してください。

表１　種子消毒薬剤例

時期	薬剤名	対象病害	使用濃度(倍)	使用時期	使用回数
種子消毒	ガードホープ液剤	チューリップサビダニ	500	植付前	１回以内（種子消毒）
	ベンレートT水和剤２０（種球湿粉衣）	黒腐菌核病	種球重量の0.5～1%	植付前	１回以内
		イモグサレセンチュウ	種球重量の1%		

○種子消毒例

ガードホープ液剤（500 倍）30 分種球浸漬
↓陰干風乾
ベンレート T 水和剤 20（種子重量の 1%）種球湿粉衣
↓日陰干し（1～2 日）
植え付け

（２）　ｐＨ矯正

　ｐＨ6.5 を目標に矯正してください。pH5.5 以下では茎葉伸張、球肥大が抑制されます。

（３）イモグサレセンチュウの防除

　必要に応じて、殺センチュウ剤の土壌混和を実施してください。

表２　植え付け前防除薬剤例

時期	薬剤名	対象病害名	使用時期	薬量	使用回数	備考
植付前	ビーラム粒剤	イモグサレセンチュウ	植付前	20kg/10a	１回以内	全面土壌混和

＜ながいも＞

(1) つる切り、つる降ろし

・つる切り、つる降ろしは、茎葉が黄変した後に実施してください。黄変前のつる切りは未熟いもの原因になるため注意してください。

・実施前に試し掘りをし、尻部が丸く硬くなっていることを確認してから行ってください。

・茎葉黄変になる前に霜を受けたほ場では、10 月 20 日以降につる切りを行ってください。

※2006 年に東部管内で実施した調査で、10 月 20 日以前(茎葉黄変前)に強い霜を受けて茎葉が枯死しても、いもへの養分転流は進むことが確認されています。

＜たまねぎ＞

（１）有機物(堆肥)の投入

現状の地力を維持するためには、堆肥で２～３t/10a が必要とされています。堆肥等の有機物を投入し、気象変動に対応できる土づくりに努めてください。

（２）透排水性の改善

収穫や収穫物の搬送作業など、大型機械による踏圧により透排水性が悪化しています。コンテナ搬出後にサブソイラ等による心土破砕を実施してください。

（３）土壌改良資材の施用

・たまねぎの適正ｐＨは 6.0～6.5、有効態りん酸は 60 ㎎～80 ㎎/100g です。

・低ｐＨやりん酸不足は、移植後の初期生育の遅れや葉先枯れ、登熟の遅れ等、生育に影響があります。また、りん酸の過剰は茎葉の早期枯れ上がりの原因となり減収につながります。

・土壌診断を実施し、健全なほ場管理を行ってください。りん酸、加里の蓄積が見られる場合は、減肥銘柄の選定により施肥バランスの改善を図ってください。

（４）来年の苗床準備

・熟畑化した苗床は、有効態りん酸や加里の蓄積により土壌養分のバランスがくずれ、育苗中に生育障害が発生しやすくなります。

・事前に苗床のｐＨ、ＥＣを測定して、土壌分析値に基づいた土壌改良および適正施肥を行ってください。

（５）融雪水の対策

ハウス周辺からの融雪水の侵入に注意が必要です。今のうちから、ハウス周辺の明きょ設置やハウスビニールの縁の埋設などの対策を行ってください。

多忙な農繁期における農作業事故防止に努めましょう!

ばれいしょや豆類の収穫と小麦のは種作業が重なり、心身の疲労が心配されます。
一層の事故防止に努めましょう。

１　トラクタ発進・ＰＴＯ始動時は、クラクションなどを鳴らし周囲に合図する。

２　機械の調整・整備時（つまり物除去等）は必ずエンジンを止める。

３　機械の飛び降り・飛び乗りをしない。

４　作業機を上げ点検する時やつまり物を除去する時は、作業機の下降を防止するため「固定脚」や「かませ木」を用い下降防止に努めましょう。

５　夕方や夜間に公道を走行する時は､車幅灯を取り付ける。